

はじめに

初の日本海側開催となった“2006年日本のうたごえ祭典 in ふくい・北陸”（以下、ふくい・北陸祭典）は、「I Love Peace I Love Kenpou 9」「うたよ、未来を拓（ひら）く輝（ひかり）となって」のサブタイトルで、日本国憲法公布60周年の11月3日より3日間、福井県内の県立音楽堂ハーモニーホールふくい、サンドーム福井、鯖江市文化センターの各会場に、6部門の合唱発表会とオリジナルコンサート、3つの音楽会に全国と地元（福井・石川・富山）の3県から、のべ13800人が参加し、大きく成功させることができた。

たくさんの方から「感動で涙が出た」「学芸会のようなものに3000円は高いと思ったけど、とてとても、5000円でもよかったねー」「あんなにスケールが大きいとは思わなかった」「こんな福井でも本気になってやればすごいことが出来るんですねー。大きな励ましをもらった」などと、うれしい言葉をたくさんいただいた。

ステージに上がった仲間たちからは、「祭典は終わったけど、まだわたし達は終わっていない、来年は全曲歌いたい」と「ぞうれっしゃがやってきた」のステージに参加した子ども達が話している。高齢者のみなさんや女性合同に参加した新しい人も、引き続き歌い続けていきたい、そして来年の奈良での日本のうたごえ祭典に参加したい。青年の1人は「...私はまだゴールテープを切っていません。不思議ですね。既に奈良にいる未来のわたしが見える気がするんです...」と。

被爆・戦後60年の節目の年に広島で開いた、“2005年日本のうたごえ祭典 in ひろしま”は、被爆者を生む悲惨な戦争を二度と起こすまいとの誓いをあらたにした。ふくい・北陸祭典は、その誓いのもとにつくられた日本国憲法公布60周年の日、命と暮らし、平和をまもる誓いとしての憲法がさらに輝き増すことを願う人々が集まり歌った。

今回、人口80数万の小県での祭典開催は、全国どこの県でも開くことができるという典型をつくった。この祭典総括が今年の奈良での祭典、引き続き創立60周年に向けた各県の運動の一助になれば幸いである。